

中央大学高等学校

毎年9月は、中央大学高等学校の生徒たちに人気の高い行事である文化祭(名称：後楽祭)と体育祭が開催される行事期間です。それぞれ、生徒たちの思い出となるような行事となりました。

■ 後楽祭

本校の文化祭である第35回後楽祭を、9月5日(土)・6日(日)に開催しました。毎年、スローガンが掲げられており、今年は「ソーダみたいに弾ける! CHUO魂!」をスローガンにしました。1日目は各クラスのダンス発表や映像上映を開催、2日目の一般公開日には、高校体育館ステージで軽音部のライブや吹奏楽部の演奏、書道部によるパフォーマンスが行われ、小ホールでは演劇部や合唱部、図書委員のビブリオバトル等が展開されました。各教室や中庭ではアトラクション・模擬店への呼び込みの声が飛び交い、まさに生徒たちが「弾ける」姿を見ることが出来ました。多くの来場者にご覧いただき、例年行われているモザイクアートや

書道部・美術部の展示など盛りだくさんの企画でした。

ご来場頂いた皆さまには、この場を借りて御礼を申し上げます。

■ 体育祭

今年は9月15日(火)・16日(水)の2日間で実施されました。1日目は理工学アリーナで、各学年種目や騎馬戦の予選を行いました。2日目は会場を多摩キャンパス第一体育館に移しての体育祭でした。

普段は後楽園キャンパスにいる中大高校生ですが、多摩キャンパスを体感できる貴重な一日にもなりました。体育祭の2日目の見せ場は応援合戦です。毎年、各学年のA～D組の4つの応援団(1～3年の合同チーム)が結成され、各チームがそれぞれの思いを込めて作った応援団旗をそれぞれの思いを込めて作った応援団旗を振りかざし、各チームがオリジナリティあふれる衣装に身をまとい応援をします。プログラム終盤の騎馬戦、綱引き、選抜リレーになると、盛り上がりも最高潮に達し、白熱した1日となりました。



後楽祭—書道部によるパフォーマンス



体育祭—A～D組の4つの応援団が結成された

■ 中学3年生の法教育講座実施

中学3年生は9月26日(土)と10月3日(土)の2回に分けて、中央大学法科大学院(ロースクール)で法教育講座を受けました。まずは中山隆夫教授から、『法と裁判』ことはじめ」と題する講義を受けました。日本人の法意識、裁判員制度の概要など、高等裁判所長官としての経歴を持たれる中山教授のお話は、大変興味深いものでした。その後、法科大学院所属の大学院生(CLS法育教室)によって、ディスカッション形式の少人数授業が行われ、正当防衛成立の是非を議論しながら「法的なものの考え方」について学びました。最後に、模擬法廷教室では裁判所の様子を見学することができ、生徒たちにとっては、法や裁判の仕組みを学ぶだけでなく、市民としての政治的教養を身につけ、また将来の職業選択についても考える機会になりました。

■ 高校英国短期語学研修

8月2日(日)から8月23日(日)までの3週間、英国短期語学研修が実施されました。本研修に参加する生徒たちは、ホームステイをしながらイギリスのボーンマスにあるRICHARD LANGUAGE COLLEGEに通い、毎日6時間、英語の授業を受けることになります。今回参加した30名の生徒たちは、最初こそ緊張と不安の入りまじった表情を見せていましたが、花火大会やバーベキュー、エクスカッションといったイベントを通じて海外の学生たちと交流を深め、楽しく充実した3週間を過ごすことができました。帰国後の成田空港で、ボーンマスに帰りたいという声があちこちから聞こえてきたことが印象的でした。生徒たちにはこの経験をいかして、今後も国際力の向上に努めてもらいたいと思います。



模擬法廷での授業の様子



ボーンマス夏季語学研修

中央大学杉並高等学校



オーストラリア・ユニティカレッジにて



会議は10回近くにもおよんだ

■ ユニティカレッジ研修

7月24日(金)～8月8日(土)、オーストラリア・ユニティカレッジ交流プログラムが行われました。ユニティカレッジと本校とは、隔年でお互いの学校を訪問し交流を深め合っています。今年、22名の中杉生が南オーストラリア州マレーブリッジにある同校を訪れました。

まずウルル(エアーズロック)で大自然に触れ、その後10日間はホームステイをしながらユニティカレッジに通いました。バディの生徒の授業に参加したり、日本語の授業のお手伝いをしたり、小学生に折り紙を教えたり…と充実した毎日を過ごしました。別れの朝、涙でぐしゃぐしゃだった両校の生徒たちの顔が忘れられません。これからもこの繋がりを大切にしていってほしいです。

■ スチューデント・ライブラリアン

杉並高校図書室では昨年度より、本学の学生によるスチューデント・ライブラリアン活動(以下SL活動)を開始しています。SL活動とは、これからの時代に求められる新しい図書館のあり方を探ろうという試みです。今年度は、司書課程の学生を中心とした5名の大学生が5月より、本校の文化祭に展示発表するため活動を開始しました。

さらに、本校生徒にもSL活動の対象を広げて参加を呼びかけたところ、6名の応募がありました。発表テーマを「高校生と新書」「青春小説とは何か」とし、全校生徒アンケートを実施し、データをまとめ、準備を進めました。10回近くの会議・作業を積み重ねた結果、文化祭当日には大変好評をいただき展示発表を成功させました。

中央大学附属横浜中学校・高等学校



ノースコート・カレッジと交流協定締結



現役中大生との連携授業

■ ニュージーランドの高校と交流協定を締結

8月23日(日)から28日(金)にかけて、本校校長がニュージーランドの高校との交流拡大を目的に、オークランド市を訪問しました。25日(火)には、本校校長がノースコート・カレッジを訪問し、交流協定に調印を行いました。2014年の4月、同校生徒が来日した際に、本校生徒宅でホームステイをしながら、本校の授業や校外研修に参加しました。今後は提携校として、より緊密な交流を行うことになります。

27日(木)には、本校校長がサンクタ・マリア・カレッジを訪れ、授業を見学しました。2016年3月に行われる中学2年生のオセアニア語学研修では、ノースコート・カレッジに加えてサンクタ・マリア・カレッジも本校生徒をホームステイの形で受け入れてくれることとなります。本校でも、2016年4月にサンクタ・マリア・カレッジから、2017年4月にノースコート・カ

レッジからそれぞれ生徒が来日する際に、ホームステイの受け入れを行うことになりました。

本校は2015年度から、従来の高校生向けの1年間の留学に加えて、1・2年生の3学期に海外に行ける「学期留学」制度を設けました。現地では本校と顧問契約を結んだ日本人の留学アドバイザーが親身にアドバイスをしてくれますので、安心して留学することができます。こうした制度を活用し、「横浜から世界へ」羽ばたく生徒がさらに増えることを期待しています。

■ 中大連携授業

9月5日(土)、技術の授業において、中学2年生と商学部斎藤正武ゼミによる中大連携授業が行われました。中学生にとってはやや難しいプログラミングの授業でしたが、現役の中大生がわかりやすく教えてくれることにより、プログラミングの楽しさを知る良い契機となりました。